

一般質問発言通告書

議席番号 21 番

氏名 川神 裕司

答弁を求める者

☐ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 障がい者に寄り添う「まちづくり」の推進について

(1) 障がい者に優しい都市機能の充実について

- ① 公共交通機関、道路、建物等において利用者に移動面で困難をもたらす物理的バリアを解消するためのバリアフリーに対する今後の整備方針について伺う。
- ② 令和4年5月「障がい者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」が公布・施行された。平成21年に「あいサポート運動」を開始した鳥取県でこの法律の環境整備を行うために「鳥取県視覚障がい者遠隔サポートシステム」を開始。本市も情報が届きにくく社会参加もハードルが高いとされる障がい者の支援のために、この法律に基づく戦略があるのか市長に伺う。

(2) 障がい者に対する積極的な就労支援について

先日お盆の14日、地元紙に「障がい者5000人が解雇・退職」という衝撃の見出しが躍った。就労継続支援A型事業所就労事業所329所が閉鎖され、国の報酬引き下げが要因と指摘されている。今後の障がい者就労支援に、より自治体の責任が問われる。

- ① 今回の影響も含め、現在の市内の障がい者就労状況をどう把握しているか伺う。
- ② 令和5年10月には福祉環境委員会より「就労支援を含めた障がい者支援について」提言書も提出されている。その中で、行政に期待する項目で「障がい者の受け入れ企業の拡大に関しては、健康福祉部と産業経済部が連携して積極的に推進すべき」と提言しているが施策推進の内部体制は万全なのか伺う。
- ③ 障がい者就労に関してハローワークと自治体の連携は益々重要度を増していると認識している。提言書では「障がい者就労支援ネットワーク」の構築を大きな課題と指摘しているが現在の進捗状況に関して伺う。

2. 今後更に取り組むべき教育課題について

(1) 人口減少の中での学校規模の適正化に関する所見について

- ① 最近の学校統合計画により当面の学校再編計画は粛々と進んでおり、今後学校改築計画も予定されている。この計画が完了後、次の再編・改築計画の議論を始めるとも伺ったことがあるが、少子化が加速する中、近い将来を見据えた議論を開始すべきではないか。今後の学校規模適正化に関する所見について問う。

(2) 学校教育における運動系部活動の意義について

- ① 令和9年より全中大会で9種目の縮減が打ちだされた。その状況に、競技によっては高校進学にあたり重要なキャリア形成の機会が奪われると全国で異論が噴出。学校教育における今後の運動系の部活の活動意義を問う。

(3) 学校における熱中症対策のガイドライン整備について

- ① 今年の夏は想像を絶する異常なまでの猛暑が日本を襲った。そのような状況下で本年4月に「学校における熱中症対策ガイドラインの手引き」の追補版が出された。当市も学校における熱中症予防体制、緊急時体制等の熱中症対策ガイドラインの整備を行い、学校現場への周知徹底を行っていると思うが、現況に関して伺う。

3. 未来へ向けた林業振興の課題について

(1) 林業ビジネスモデルへの挑戦について

- ① 浜田市は平成7年11月に約2億円で現在の弥栄町にある「笠松市民の森」を購入し浜田市が管理しているが、現在も行政財産として所有する具体的メリットについて伺う。
- ② H23.11「補助金に頼らない林業ビジネスモデル」レポートをコマツ坂根会長に提出して取組をスタート。H24～26にハーベスタ等の高性能林業機械を導入。しかしながら、種々の理由によりプロジェクトの目標達成ができなかったと認識している。その際、プロジェクトの再興に繋がるような総括はなされなかったのか伺う。
- ③ 過去素晴らしいプロジェクトが始動し、新たな林業ビジネス目指そうとしていたが中断はとても残念である。そこで「笠松市民の森」や「ふるさと体験村」を実証実験フィールドに設定し、再び伐採からチップ製造等、ICTも駆使した多角的な森林戦略を若者に指導する「林業技術トレーニングセンター」の設置に取り組む考えはないか所見を問う。

(2) 公共工事における浜田産材の地産地消の推進について

- ① 今まで浜田産材の使用に関して前向きな取り組みがなされてきたと認識しているが、十分な成果が上がっていないのではないかと推測するが今後の浜田産材の公共工事における使用に対する所見に関して伺う。

一般質問発言通告書

議席番号 3 番

氏名 大谷 学

答弁を求める者

(○をつける)

☐ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員 ☐ 選挙管理委員会委員長

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. オーガニックビレッジの推進について

(1) 全国オーガニック給食協議会への加入の提案について

- ① 令和5年6月に千葉県いすみ市長が代表理事となって「学校給食の有機化」を協働で目指す全国オーガニック給食協議会が発足している。「学校給食の有機化」を目指すことによって地元の子どもたちに安心安全な食材を提供すると農家のモチベーションが向上し、作ったら買ってもらえると販路の安定化によって有機農産品の生産量が飛躍的に増加した自治体もある。この協議会に島根県の自治体では出雲市と江津市が加入、さらに島根県農業協同組合が加入している。浜田市においてもオーガニックビレッジを目指すのであれば生産者の意欲向上や販路確保のためにこの協議会に加入をして先進事例を学び農業振興に努めるべきと提案するが市の認識を伺う。

2. やりがいが発揮できる学校における働き方改革の推進について

(1) 学校における研究と修養（研修）の機会の確保について

- ① 教育公務員特例法第21条によると「教育公務員はその職責を遂行するために絶えず研究と修養に努めなければならない」と規定している。また、第22条では「教育公務員には、研修を受ける機会を与えなければならない」とも規定している。このことについて教育委員会は、どのように取り組んでいるか、認識を伺う。
- ② 教育公務員特例法第22条2項によると「教員には、授業に支障のない限り、所属長の承認を受け、勤務場所を離れて研修を行うことができる。」とある。学校現場における勤務場所を離れての研修の運用実態を伺う。

(2) 夏季等の長期休業期間中の学校の業務について

- ① 休業期間外の教員の超過勤務時間は月何時間か現状を伺う。
- ② 小中学校1校当たりにおける学校閉庁日の設定日数の状況を伺う。
- ③ 所属長承認により「職務専念義務免除」または「承認研修」による研修は教員一人当たり何日か、その状況を伺う。
- ④ 勤務の振替による休暇のまとめ取得の状況を伺う。
- ⑤ 教員の勤務状況について、保護者や地域の住民等に懸念を抱かれないようにと教員への指導はあると思うが、教員が働きやすい環境づくりのため、教員の仕事の特殊性や勤務形態について保護者や地域の住民等の理解が促進されるように広報してはどうかと考えるが見解を伺う。

3. 文化財保存活用地域計画について

(1) 石見神楽の位置づけについて

- ① 文化財保存活用地域計画を作成することによって未指定の文化財も含めた地域の文化財の総合的・一体的保存活用ができる。地域の宝として石見神楽をどのように位置づける方向か現状を伺う。

(2) 戦争遺産及びその関連物の扱いについて

- ① 戦後 79 年が経過し各地で戦争遺産等の発掘・記録・伝承の動きがある。浜田市における戦争遺産およびその関連物として認識している物は何かその認識を伺う。
- ② 現在の小中学生は戦争体験者から生の声が聞ける最後の世代と言われている。市として取り組むべきことは何かその認識を伺う。

令和 6 年 8 月 21 日
10 時 33 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 17 番

氏名 永見 利久

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、新型コロナウイルス感染症の予防対策について

新型コロナウイルス感染症の発生以降、学校をはじめ様々な所で3密回避などの感染症対策に取り組まれ、冬期に流行する感染症も少なかったが、5 類移行後は活動制限が緩和され、昨年の夏以降、様々な感染症が流行した。

最近また、新型コロナウイルス感染者も増え始め、今年7月末から8月上旬にかけて、島根県内の感染者数は600人を超え、浜田保健所管内では120人以上の方が感染状況にあるとの報道もあったため、これに関連した質問をする。

(1) 感染予防について

- ① 新型コロナウイルスが 5 類に移行になり、活動制限が緩和されたことが再度の流行につながっているのではないかとと思うが、市としての見解を伺う。
- ② 新型コロナウイルスの感染者の年齢層を把握することが感染予防に役立つと考えるが、浜田保健所管内での状況を伺う。
- ③ 集団感染リスクの高い学校における制限緩和後の感染対策について伺う。

(2) ワクチン接種の有料化について

新型コロナウイルスは昨年12月以降から新規感染者が増え始めたと厚生労働省の発表もあった。昨年9月以降に始まったワクチン接種は、オミクロン株からの「XBB」系統に対応しており、それが新たな変異株の「kp3」に対しても重症化予防につながるの見解もある。それらに関連した質問をする。

- ① 新型コロナワクチンの接種費用は、これまで全額公費であったが、4月からは有料になった。ワクチン接種の状況について伺う。
- ② ワクチン接種有料化と感染者増加の関連性について、市としての見解を伺う。
- ③ ワクチン接種に対する支援をするつもりはないか伺う。

2、不登校児童生徒への対応について

児童生徒健全育成事業における、不登校等児童生徒の教科指導・体験活動等演習を行う教育支援センター山びこ学級、不登校児童生徒の居場所の校内フリースクール事業、そして、昨年 9 月に、不登校児童生徒への支援について、総務文教委員会が市長、教育長に提出した提言書の内容などに関連した質問をする。

- ① 不登校及び不登校傾向の児童生徒数の現状について伺う。
- ② 不登校及び不登校傾向となる原因についての認識を伺う。
- ③ 不登校児童生徒の日中の過ごし方について、どのように把握しているのか伺う
- ④ 不登校児童生徒の学校への復帰の希望についての現状を伺う。
- ⑤ 現在の山びこ学級の利用者の状況について伺う。
- ⑥ 校内フリースクールは令和 6 年度は試行的に実施と伺っているが、利用の状況について伺う。
- ⑦ 校内フリースクールの次年度以降の実施について考えを伺う。

発言No.

18

受付No.

17

令和

6

年

8

月

22

日

10時

30分

受付

一般質問発言通告書

議席番号 9 番

氏名 柳楽 真智子

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 防災・減災対策について

(1) 気象防災について

- ① 気象庁では各気象台に、地域ごとの災害特性を踏まえた担当チーム「あなたの町の予報官」が設けられているが、連携の状況について伺う。
- ② 予報の解説から避難の判断まで、一貫して扱える「気象防災アドバイザー」については、島根県内でも1市2町(雲南市・奥出雲町・飯南町)で任用されているようだ。地域防災計画等の見直しの際や防災訓練における講演など、浜田市での活用状況について伺う。

(2) 女性人材の登用について

- ① 防災・減災対策に女性の視点を活かすことが求められている。自主防災組織や浜田市防災会議などの組織における女性の登用の状況を伺う。
- ② 浜田市の防災安全課では現在、女性の職員が配置されている。今後も担当課には必ず女性職員を配置していただきたいと考えるが所見を伺う。

2. マイナンバーカードについて

(1) マイナ保険証について

- ① 今年の12月2日からこれまでの健康保険証は新規発行されなくなり、その後はマイナンバーカードでの保険証利用を基本とする仕組みに移行される。マイナンバーカードについては、今年の7月1日時点で、国民の約81%が保有しているが、健康保険証としての利用については、5月時点で全体の約7.73%にとどまっているようである。浜田市での状況を伺う。
- ② マイナンバーカードを活用した「マイナ保険証」については賛否両論あると認識しているが、マイナ保険証を保有していない方への対応はどのように行われるのか伺う。

- ③ 総務省では来庁が困難な方への支援として、「施設等に対するマイナンバーカードの取得支援」という事業を実施しており、行政職員が希望のある施設や自宅等に出向いて申請の受付ができるとのことである。マイナンバーカード交付事務費として10/10の国庫補助となっていますが、このような取組みの必要はないか伺う。
- ④ 患者の薬や診療データに基づいてより良い医療が提供され、高額療養費制度の限度額適用認定証が不要になるなど、患者と医療機関それぞれにメリットがあるとのことですが、今後の利用促進をどう進めていくのか伺う。

(2) 緊急時の活用について

- ① 大規模災害時に、開設された避難所での、マイナンバーカードを使った「入退所管理」や「薬剤情報の管理」を行う実証実験が行われた結果、「入退所の手続き」がスムーズかつ正確に行われ、避難者の把握にかかる時間が10分の1に短縮されたとのこと。今後、避難所でのマイナンバー活用は浜田市でも想定されているのか伺う。
- ② 浜田市ではマイナンバーカードを活用した救急実証事業が、8月23日から開始されました。始まったばかりだが活用状況を伺う。
- ③ 救急車でマイナンバーカードを活用するにあたっては、専用の資機材が必要となるが、他市のホームページで実証事業を見た際に、資機材（タブレット）など実証事業に掛かる経費はすべて消防庁負担で、実証事業終了後も必要な資機材は無償貸与となると記載されていた。浜田市でも同様の取組なのか伺う。

3. 引きこもり支援について

- ① 8月21日に総社市へ伺い、ひきこもり支援について視察を行った。引きこもりに対する理解を深めていただくために、独自のテキストを作成され、「ひきこもりサポーター養成講座」を開催されている。理解者が増えることで早期の発見や、地域で支える仕組みにも繋がることから重要と感じた。浜田市でもこのような取組が考えられないか伺う。